

科目名	暮らしの中の憲法				担当者	三 森 敏 正						
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回	授 業 形 態	講 義	学 年	1・2年	開 講 期	後 期
				授業時間数	30	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		教務課を通して連絡										
専門的 学習成果	①	国家と憲法の関係を理解し、説明することができる。										
	②	憲法の意味を理解し、論じることができる。										
	③	立憲主義について理解し、説明することができる。										
	④	幸福追求権・法の下での平等について理解し、説明することができる。										
	⑤	新しい人権について理解し、論じることができる。										
	⑥	自由権・社会論を理解し、論じることができる。										
	⑦	基本的人権と統治論の関係を理解し、論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	憲法の意義を理解し、基本的人権に配慮した社会生活を送ることができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
	(2)	新たな問題に関して、基本的人権の観点から対処できる。(専門的学習成果の④に関連)										
	(3)	自由権、社会権を理解し、状況に応じて国家、地方自治体への要請などができる。(専門的学習成果の⑥⑦に関連)										
	(4)	人として生きる意味を理解し、社会生活にいかすことができる。(専門的学習成果の①～⑦に関連)										
授業概要	日本国憲法を取り巻く状況は、今世紀に入ってから急激に変化している。そのため、未来志向の議論をすすめることは大切である。本講義においては、他の法律との関係も重視しながら、教育の現場で働くことの注意点についても解説していきたい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、評価を行う。								
		レポート	10	Rシートについて評価を行う。								
		平常点	10	積極的に授業へ取り組み意欲や態度について評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	棟居快行・松井茂記 他編		『基本的人権の事件簿 憲法の世界へ 第6版』						有斐閣			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	山下・宇賀 代表		『ポケット六法 令和3年版』						有斐閣			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①教科書・六法は必ず持参すること。授業中の態度も評価する。 ②ノートは必ず取ることが大切である。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	立憲主義	毎回理解度と質問等を記載するRシートを配布・回収する
	学習成果	立憲主義を理解する。	
	予習復習の内容	立憲主義を理解する。	
2回	授業内容	日本国憲法の成立	
	学習成果	日本国憲法の成立過程を理解する。	
	予習復習の内容	日本国憲法の成立過程を理解する。	
3回	授業内容	日本国憲法の基本原理	
	学習成果	日本国憲法の基本原理を理解する。	
	予習復習の内容	日本国憲法の基本原理を理解する。	
4回	授業内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権	
	学習成果	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
	予習復習の内容	個人主義、私人間効力、幸福追求権を理解する。	
5回	授業内容	新しい人権、自己決定権	
	学習成果	新しい人権、自己決定権を理解する。	
	予習復習の内容	新しい人権、自己決定権を理解する。	
6回	授業内容	治療拒否と自己決定権	
	学習成果	治療拒否と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
7回	授業内容	夫婦別姓と自己決定権	
	学習成果	夫婦別姓と憲法との関係を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
8回	授業内容	プライバシー権	
	学習成果	プライバシー権と憲法の関係を理解する。	
	予習復習の内容	プライバシー権と憲法の関係を理解する。	
9回	授業内容	法の下での平等	
	学習成果	法の下での平等を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
10回	授業内容	精神的自由、思想・良心の自由	
	学習成果	精神的自由、思想・良心の自由を理解する。	
	予習復習の内容	判例を分析する。	
11回	授業内容	信教の自由、学問の自由	
	学習成果	信教の自由と学問の自由を理解する。	
	予習復習の内容	信教の自由と学問の自由を理解する。	
12回	授業内容	表現の自由	
	学習成果	表現の自由を理解する。	
	予習復習の内容	表現の自由を理解する。	
13回	授業内容	経済的自由権	
	学習成果	経済的自由権を理解する。	
	予習復習の内容	経済的自由権を理解する。	
14回	授業内容	人身の自由	
	学習成果	人身の自由を理解する。	
	予習復習の内容	人身の自由を理解する。	
15回	授業内容	社会権	
	学習成果	社会権を理解する。	
	予習復習の内容	社会権を理解する。	

科目名	経済のしくみ				担当者	本 吉 祥 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	政府が行っている各種経済政策について説明できる。										
	②	消費者と生産者の行動原理について説明できる。										
	③	市場における価格決定について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	経済のしくみを理解し、社会生活に活かすことができる（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	経済的諸問題について判断力を有し主体的行動をとることができる（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	私たちの生活は社会経済活動と密接に結びついており、その点に関して経済学は大切な学問の一分野と言えるが、苦手意識を持っている人が多い。この授業は特に社会経済を理解する上で基本的かつ重要な科目である「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」を取り扱う。政府の役割や個人・企業の行動原理、市場の仕組みについて、その基本理論を理解し、私たちの生活との関連性について考える。経済学は専門用語が多く、難解であるが、各種経済問題について解決力・思考力を養えるように基本的な部分の内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	毎回簡単な小テスト（範囲は前回授業分）を行い評価する。								
	平常点	30	授業の態度・関心を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	石川秀樹	『みんな欲しかった！公務員 合格へのはじめの一步 経済科目』						TAC 出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストに目を通し、授業で取り扱う内容がどのようなものか把握しておく（予習：週1時間程度）。授業後はわからない部分を明確にし、テキストに再度目を通す（復習：週1時間程度）。日頃より新・テレビ・ネットなどで経済についての情報に関心を持つようにする（30時間）。 ②小テストについては、毎回テスト後に解説付き解答を配布する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション①（経済学の思考方法について）	授業の態度・関心を評価
	学習成果	経済の理論モデルについて説明できる。	
	予習復習の内容	経済の分析方法について理解を深める。	
	授業内容	オリエンテーション②（古典派とケインズ派の違いについて）	授業の態度・関心を評価
2回	学習成果	古典派とケインズ派の市場の捉え方の違いについて説明できる。	
	予習復習の内容	世界経済が大恐慌に対してそのように対応したのか理解を深める。	
3回	授業内容	マクロ経済学①（GDPと物価）	出席・小テストで評価
	学習成果	GDPを始めとした国民経済計算概念について説明できる。	
	予習復習の内容	GDPという指標概念の限界について考えてみる。	
4回	授業内容	マクロ経済学②（財市場分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	インフレギャップ、デフレギャップについて説明できる。	
	予習復習の内容	ギャップの解消方法について理解を深める。	
5回	授業内容	マクロ経済学③（乗数）	出席・小テストで評価
	学習成果	乗数効果について説明できる。	
	予習復習の内容	なぜ乗数が重要な概念なのか考えてみる。	
6回	授業内容	マクロ経済学④（貨幣市場分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	貨幣供給のしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	ケインズの流動性理論について理解を深める。	
7回	授業内容	マクロ経済学⑤（金融政策とその効果）	出席・小テストで評価
	学習成果	具体的に実施されている金融政策について説明できる。	
	予習復習の内容	金融政策が無効となるケースについて理解を深める。	
8回	授業内容	マクロ経済学⑥（財政政策とその効果）	出席・小テストで評価
	学習成果	具体的に実施されている財政政策について説明できる。	
	予習復習の内容	財政政策が無効となるケースについて理解を深める。	
9回	授業内容	ミクロ経済学①（需要曲線）	出席・小テストで評価
	学習成果	消費者の効用最大化行動について説明できる。	
	予習復習の内容	代替効果、所得効果について理解を深める。	
10回	授業内容	ミクロ経済学②（供給曲線）	出席・小テストで評価
	学習成果	企業の利潤最大化行動について説明できる。	
	予習復習の内容	企業がどのように生産量を決定するのか理解を深める。	
11回	授業内容	ミクロ経済学③（市場理論）	出席・小テストで評価
	学習成果	価格がどのように決定されるのか説明できる。	
	予習復習の内容	ワルラス調整過程とマーシャル調整過程について理解を深める。	
12回	授業内容	ミクロ経済学④（余剰分析）	出席・小テストで評価
	学習成果	ハレート最適について説明できる。	
	予習復習の内容	効率性と公平性の違いについて考えてみる。	
13回	授業内容	ミクロ経済学⑤（不完全競争理論）	出席・小テストで評価
	学習成果	完全競争市場と不完全競争市場の違いについて説明できる。	
	予習復習の内容	不完全競争市場（独占・寡占）の弊害について考えてみる。	
14回	授業内容	ミクロ経済学⑥（外部経済）	出席・小テストで評価
	学習成果	市場の失敗について説明できる。	
	予習復習の内容	外部不経済の内部化について理解を深める。	
15回	授業内容	ミクロ経済学⑦（公共財）	出席・小テストで評価
	学習成果	公共財の非競争性・非排他性について説明できる。	
	予習復習の内容	リンダールの解法について理解を深める。	

科目名	体育理論				担当者	高 間 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に教室にて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	体育理論の様々な科学的知識を理解し、実践できる。										
	②	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法や取り組み方など健康維持増進のための方法を実践できる。										
	③	一生充実した生活を送るための生活習慣の見直しと自分自身のライフスタイルの再構築を計画できる。										
	④	自分自身の健康管理のみならず、周囲の人々をサポートを提言できる。										
汎用的 学習成果	(1)	体育理論の科学的知識を理解し、健康に対する意識を高め社会生活にいかすことができる。										
	(2)	現代社会における運動の意義・役割を理解し、継続的に運動を導入する方法を検討することができる。										
	(3)	スポーツ活動・運動の合理的な実践方法を学び、より安全な取り組み方を理解する。										
授業概要	現代社会において私たちが良好な健康状態を保ち生活するためには、日常生活のなかで食事や睡眠、運動などのバランスに留意することが必要である。本授業においては、運動が心身に与える影響を理解し、さまざまな科学的・合理的知識を得ること で生涯にわたって「いかに長く健康を享受し、生き甲斐をつくり、豊かな老後を過ごすか」といった生活の質の向上と「健康 寿命の延伸」につながる運動の導入方法について理解する。そして、生涯にわたって継続的に豊かなスポーツライフを送るた めに必要な各個人の資質を高めることをねらいとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	生活習慣の見直しと改善策を具体的な例を挙げ自分自身の意見を述べているかを観点に 評価を行う。								
		平常点	10	積極的な授業態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果②③で評価する。 (3) 専門的学習成果②③で評価する。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	公益財団法人 日本体育協会	『公認スポーツ指導者養成テキスト』					社走狗					
	佐藤祐造 柴田英治	『テキスト健康科学』					南江堂					
	大学生の健康・スポーツ科学研究会	『大学生の健康・スポーツ科学』					道和書院					
	財団法人 健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者テキスト』					南江堂					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、配布される参考資料をもとに進めていくかたちとなるため授業の中で配布された資料をもとにした復習を積極的に行うこと。また、次回の授業内容とされる範囲を予告するので関係するものに対する予習し、理解を深めておくこと。(予習復習：4時間程度) ②単元ごとの課題をもとに評価・解説し、全体に対するフィードバックし振り返りの時間を設ける。筆記試験答案用紙は後期授業開校後に返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：スポーツの意義役割	本授業の振り返り(まとめ)：現代社会の変化
	学習成果	現代社会の変化の中でのスポーツ活動の意義・役割を理解する。	
	予習復習の内容	スポーツの意義・役割を自分自身の言葉で整理し、カテゴリーごとにわけてまとめる。	
2回	授業内容	身体活動と心身の健康	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題) スポーツの意義・役割
	学習成果	運動が心身に与える影響を理解し、自分自身の生活習慣を見直す。	
	予習復習の内容	自分自身の生活習慣の見直し、具体的な例と改善策を挙げる。	
3回	授業内容	運動とトレーニング	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題)：心身の健康管理
	学習成果	トレーニングの基本的なルールや効果的な進め方等運動実践に関する理解を深める。	
	予習復習の内容	自分自身が興味がある運動を探し、実際に取り組む手段を検討する。	
4回	授業内容	運動技能の習得と運動学習	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題)：トレーニングの基礎的ルール、運動方法
	学習成果	運動の効果的な学習方法、学習過程を理解し、運動の楽しむ方法を考察する。	
	予習復習の内容	運動学習を理解し、効果的学習について具体的な例を挙げるができるようにする。	
5回	授業内容	運動とからだの発育発達	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題)：運動の学習過程
	学習成果	運動と発育発達の関係について理解し、適切な運動の導入方法を理解する。	
	予習復習の内容	心身の発育発達に合わせた働きかけ、指導方法について考察する。	
6回	授業内容	運動と安全(1)(特殊環境下での活動、対策)	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題)：発育発達に合わせた運動導入
	学習成果	暑熱環境下、寒冷下における運動の安全な取り組み方と予防、対策を理解する。	
	予習復習の内容	スポーツ環境、対象者に合わせた予防・対策について考察する。	
7回	授業内容	運動と安全(2)(スポーツ医学、応急処置)	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題)：特殊環境下での対策
	学習成果	スポーツ現場で起きやすい内科的障害、外科的障害に対する応急処置を理解する。	
	予習復習の内容	対象者、スポーツ種目ごとの予防・対策について考察する。	
8回	授業内容	まとめ：生涯スポーツの在り方	前回の授業の振り返り(復習となる練習問題)：スポーツ医学 これまでの学習内容の中から確認としての総合的な筆記試験を実施する。配布資料をもとに復習をしておくこと。
	学習成果	現代社会の生涯スポーツに対する考え方を理解する。	
	予習復習の内容	自分自身に合わせた豊かなスポーツライフの設計の考察する。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	健康スポーツ					担当者	高 間 章					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回授業時に連絡する。授業に対する質問等は毎回授業の前後に体育館アリーナにて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	様々なスポーツを通しての技術・ルールの理解のみならず、人間としてのマナー・エチケットに対する考えを育む。										
	②	基本技術を習得し、試合を通してスポーツ活動を親しむための総合的な運動技能を高める。										
	③	生涯にわたって、スポーツ活動を楽しむための創意工夫を行い、より積極的な意欲・資質を高める。										
	④	様々なスポーツ活動を通して、仲間と協力してグループ活動を行い人間関係の向上を図る。										
	⑤	自己やチームの課題を見つけて解決しようとする前向きな態度を養う。										
汎用的 学習成果	(1)	各スポーツ種目のルール・技術、活動する際のマナーに対する理解を深める。										
	(2)	様々なスポーツ活動を通して、活動を親しむための総合的な運動技能を高め、生涯にわたって運動を親しむための土台づくりをする。										
	(3)	個人・集団での課題を達成することでスポーツ活動を通しての人間関係の向上を図る。										
	(4)	健康の維持増進のためのスポーツ活動の取り組みについて理解する。										
授業概要	本授業においては、健康づくりのためのスポーツ・身体活動の意義・役割について各種目ごとの特徴をふまえて解説し、実技を通して、実際にその素晴らしさを体験する。試合形式での活動の中では、学生同士協力することで楽しさや喜び、悔しさを共に味わい、生涯にわたって継続的にスポーツ活動を親しむ能力や意欲、資質を高め、良好な人間関係を築く方法を検討する。更にスポーツの基本的な技能、ルール、マナーを身に付けることでスポーツに対する理解を深め、様々な運動の魅力を知り、実践による心身の健康維持増進に努めるための創意工夫をするなど実践力を身に付けていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	設定されたテーマに沿ったレポート課題の提出（提出期限厳守）について評価する。								
		平常点	30	個人、集団での活動に対する取り組みの姿勢・態度、他者への働きかけ等授業効果の向上への貢献（リーダーシップ含む）、出席状況による評価とする。								
		技能・知識の習得度	40	基礎的な技能向上に向けた積極的な態度、課題達成に対する積極的な態度、試合運営管理（審判活動）について評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①で評価する。 (2) 専門的学習成果①②③で評価する。 (3) 専門的学習成果④⑤で評価する。 (4) 専門的学習成果③④⑤で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①気候・内容に合わせた服装・シューズ（体育館：インシューズ）を準備し、アクセサリ類ははずして受講すること。活動中は、各種目のルールを理解し、仲間と協力し審判を含めた試合の管理運営を行いつつ、目標・課題に沿って積極的に参加すること。気象条件・人数に合わせた活動内容の変更等が生じる場合があることを理解したうえで参加すること。時間外学習としては、各種目のルールの確認、技能・体力の向上に努めた活動など行うこと。（予習復習：週1時間程度） ②各時間ごと課題に対するの振り返りを行い、次の活動に活かすことができるようにする。また、評価基準の1つであるレポート課題は提出期限を厳守すること。（最終回に添削後返却）											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：運動の準備（ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法、グループ分け）	運動の進め方・方法の理解
	学習成果	授業の目的・進め方（活動内容と授業内の運動の進め方）を理解し、実施できる。	
	予習復習の内容	運動の方法・進め方を確認し、今後の活動のために日常生活の活動量を増やす努力をする。	
2回	授業内容	レクリエーション活動（コミュニケーションゲームと運動の準備）	運動に対する心身の準備（レクリエーション活動への取り組み）
	学習成果	レクリエーション活動を通して、スポーツ活動を安全に取り組むための心身の準備を整える。	
	予習復習の内容	レクリエーションスポーツの役割を意義・理解し、今後の活動のための心身の準備を整える時間をつくる。	
3回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ニュースポーツ（インディアカ）とは何か理解を深め、ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
4回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(2) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための更なる準備を整える。	
5回	授業内容	ニュースポーツ（インディアカ）(3) 試合形式での実施	ニュースポーツ（インディアカ）の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	新たなチーム編成の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
6回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	ルールを理解し、基本的な技能を習得し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールのルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
7回	授業内容	ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(1) 試合形式での実施	ソフトバレーボールの取り組み
	学習成果	チームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ソフトバレーボールの試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
8回	授業内容	球技（種目選択）(1) ルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	選択した球技種目のルールを理解し、簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	選択した球技活動のルール、基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
9回	授業内容	球技（種目選択）(2) 試合形式での実施	選択した球技種目の取り組み
	学習成果	グループを変え、新たなチームの課題を設定し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
10回	授業内容	バドミントン・卓球 (1) 2つの種目のルール確認・説明、基本技能の習得、簡易ゲーム	バドミントン・卓球の取り組み 「レポート課題」心身の準備 自分自身が興味のあるスポーツ種目の歴史・ルール・特徴など調べてレポート提出する。（提出期限厳守）
	学習成果	2種目のルールを理解し、基本的な技能を習得し、それぞれの簡易ゲームを実施できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
11回	授業内容	バドミントン・卓球 (2) 基本技能の練習、試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	試合の流れを理解し、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	ルール・基本的技能の確認をし、試合形式での活動をするための準備を整える。	
12回	授業内容	バドミントン・卓球 (3) 試合形式での実施	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	グループ分けの方法について検討し、試合を円滑に進めるための方法を検討する。	
13回	授業内容	バドミントン・卓球 (4) 試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
14回	授業内容	バドミントン・卓球 (5) 試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	仲間と協力して試合の運営管理、審判を含めた活動を試合の中で実践・展開できる。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	
15回	授業内容	バドミントン・卓球 (6) 試合形式での実施（グループごとに対戦相手を設定）	バドミントン・卓球の取り組み
	学習成果	各個人、チームごとに活動に対する総合的な振り返りをする。	
	予習復習の内容	試合の中でよりよいチームワークを形成し戦術等工夫をする。	

科目名	海外文化研修				担当者	川 辺 博 ・ 中 島 恵						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	海外（渡航先）の文化や歴史について、探求心を持って調査することができる。										
	②	事前に調査・計画した研修内容を現地での行動を通して実践できる。										
	③	日常会話程度の語学力を習得して現地で活用できる。										
	④	海外での研修活動に際し、自己管理と危機管理を意識し行動することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的な会話スキルを身につけ、研修地で実践できる。(専門的学習成果①②③④に連動)										
	(2)	多文化に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的に交流・行動することができる。(専門的学習成果③④に連動)										
	(3)	国際社会での貢献をめざして、自己啓発を続け、グローバルな観点で協働することができる。(専門的学習成果②③に連動)										
授業概要	海外にて3～5日間程度の研修を行い、現地の経済・文化・歴史について学ぶ。また、状況に応じて国際交流活動やボランティア活動にも取り組んでみたい。 授業は集中講義で行い、海外研修をするにあたり、事前学習として現地の調査、旅券申請手続き、語学学習などを行い研修に必要な知識と教養を身につける。研修旅行終了後は報告書を提出する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	研修旅行終了後にレポート提出する。								
		平常点	20	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。								
	研修	50	研修旅行期間中の取り組み、意欲により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③④で評価を行う。 (3) は専門的学習評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①1・2年共に受講できる。訪問国など、具体的な計画は新年度開講期に伝える。 研修参加費用として約20万円を予定している。 事前学習として訪問国についての情報を収集しておくこと（予習：週2時間程度）。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートや課題については、添削し返却する。 ③受講者が20名に満たない場合は中止とする。また、外務省により安全への注意が促された場合にも、実施を見送る。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 概要説明	授業において受講学生にシラバスの内容を質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
	授業内容	申請等の手続き、スケジュールの説明	
2回	学習成果	旅券の申請を各自行える。研修旅行日程を理解して行動計画を立案できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	申請等の手続き、専門研修やフィールドワーク	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	自主研修と専門研修の内容を理解して説明できる。	
3回	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	異国の文化 ①歴史と発展	
4回	学習成果	渡航先の歴史とその発展を理解して説明できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
5回	授業内容	異国の文化 ②現代と経済	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の現状と経済について理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	専門研修の概要	
6回	学習成果	専門研修の内容を理解して選択できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
7回	授業内容	専門研修の準備 語学学習	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	研修先の言語を学習して専門研修で活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	最終案内・確認	
8回	学習成果	海外に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる。	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
9回	授業内容	研修 第1日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	研修 第2日目	
10回	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
11回	授業内容	研修 第3日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	研修 第4日目	
12回	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
13回	授業内容	研修 第5日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
	授業内容	研修報告書の作成	
14回	学習成果	研修内容を振り返ることができる。	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
15回	授業内容	研修報告	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容について発表できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	



科目名	環境と自然				担当者	高田淑子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数					30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。メールでの問い合わせに応じる。											
専門的 学習成果	①	現代科学における自然観・宇宙観を理解し、概要を説明できる。										
	②	地球生態系としての自然環境を理解し、社会の在り方について討議できる。										
	③	日常生活の中での科学技術に関する諸問題を考察し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	幅広い教養を身に付け、将来にわたり好奇心を持ち続け、身の周りの現象について思考し、探求することができる。(専門的学習成果の①②)										
	(2)	現代社会における科学技術と関連する様々な課題について、主体的に判断し社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果の②③)										
授業概要	私たちの住む地球は、宇宙の中の太陽系の一つの惑星であり、人類の生存に適した環境を保持している。この地球上に暮らす私たち人類が、どこからきたのか、何者か、そしてどこへ向かうのかを、宇宙という大きな枠組みの中で科学的に考える。また、太陽系の中の地球について学習し、地球の形成から進化の過程を学び、地球環境の変遷について考える。特に、気候変動、地震・津波などの自然現象を科学的見地から理解し、オゾンホールの拡大や二酸化炭素の増加等、人類が地球に与える影響の意味を探り、我々の暮らしに還元する。さらに、我々人類が、地球の進化の過程における生物進化の帰結であることを理解した上で、地球生態系システムの視点から、地球環境との関わりを考察し、生物多様性や生態系保全の重要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	講義の展開に応じて、内容の理解を問うレポートで評価を行う。								
		平常点	20	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
		筆記試験	20	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、講義全体の内容理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②及び③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として、講義内容のテーマについて、理解に努めること。特に、関心をもった点や疑問点を整理しておくこと(予習：週2時間程度)。事後学習としては、紹介する文献等を参考にしながら、課題のレポートを記述すること(復習：週2時間程度)。テキスト参考書は授業の中で紹介する。 ②フィードバックとして、レポート回収後に、内容と評価について解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス：講義の内容とねらい	各回におけるレポート(例えば、宇宙の進化に関する問いについて)	
	学習成果	本授業の内容を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学修計画を立てる。		
2回	授業内容	宇宙の進化Ⅰ 太陽系の構造		
	学習成果	太陽系の構造について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	太陽系の構造について調べ、整理しておく。		
3回	授業内容	宇宙の進化Ⅱ 太陽系の形成と進化		
	学習成果	太陽系の形成と進化について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	太陽系について調べ、整理しておく。		
4回	授業内容	宇宙の進化Ⅲ 銀河系と星の誕生と死		
	学習成果	銀河系における星の誕生と死の過程を説明できる。		
	予習復習の内容	銀河系・恒星について調べ、整理しておく。		
5回	授業内容	宇宙の進化Ⅳ 宇宙の始まりから銀河形成まで		
	学習成果	膨張宇宙において銀河が形成される過程を説明できる。		
	予習復習の内容	宇宙に関して調べ、整理しておく。		
6回	授業内容	地球環境Ⅰ 地球の構造	各回におけるレポート(例えば、気候変動について)	
	学習成果	地球の構造について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の構造について調べ、整理しておく。		
7回	授業内容	地球環境Ⅱ 地球の形成と進化		
	学習成果	地球の形成と進化について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の進化について調べ、整理しておく。		
8回	授業内容	地球環境Ⅲ 地球大気と海洋		
	学習成果	現在の地球の大気と海洋について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球の大気と海洋について調べ、整理しておく。		
9回	授業内容	地球環境Ⅳ 地球大気の変化(酸素の変遷と二酸化炭素量の増加)		
	学習成果	地球大気の組成の変遷について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	大気の組成の変遷について調べ、整理しておく。		
10回	授業内容	地球環境Ⅴ スノーボールアースと気候変動		
	学習成果	地球における気候変動について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	地球における気候変動について調べ、整理しておく。		
11回	授業内容	地球環境Ⅵ 自然災害の科学		
	学習成果	地球上で起こる災害を、科学的な観点から説明できる。		
	予習復習の内容	地震・津波・台風等の気象現象など自然災害について、整理しておく。		
12回	授業内容	地球生態系Ⅰ 生命の起源と進化	各回におけるレポート(例えば、地球の生態系について)	
	学習成果	原始地球における生命の起源について、学修した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	原始地球における生命の起源について、整理しておく。		
13回	授業内容	地球生態系Ⅱ 生命の進化と生物多様性		
	学習成果	「ヒト」までの人類の進化と、生物多様性について説明できる。		
	予習復習の内容	生命の進化と生物多様性に関して調べ、整理しておく。		
14回	授業内容	科学技術と私たち		
	学習成果	科学技術と私たちについて考察し、自己のあり方に反映できる。		
	予習復習の内容	講義全体について整理、確認を行い筆記試験に備えること。		
15回	授業内容	筆記試験		筆記試験(全15回分の内容を問う)
	学習成果	環境と自然について理解し、自己の地球観・SDGsの考え方を養う。		
	予習復習の内容	講義全体について整理、確認を行い筆記試験に備えること。		